

危機管理マニュアル



南国市立鳶ヶ池中学校

基本的な考え方

(1) 危機管理とは

- 平時において、危機（事件・事故）を未然に布瀬具手段を講じること。
- 危機（事件・事故）が発生した場合に、その被害を最小限に食い止めること。
- 危機（事件・事故）後の対応や措置を速やかに行うこと。

(2) 危機管理対応上の留意点

- 生徒の生命の尊重、人権の尊重を考えて対応する。
- 学校体制で、全教職員の共通理解のもと、組織として協同で対応する。
- 敏速な対応、状況の把握、的確な判断、報告が重要である。
- 悪い本当の情報こそ最優先に報告する。
- 事前活動（未然防止）を最高の危機管理と認識する。
- 常に最悪のことを想定し、その最悪が起こらないように防止し、回避する。

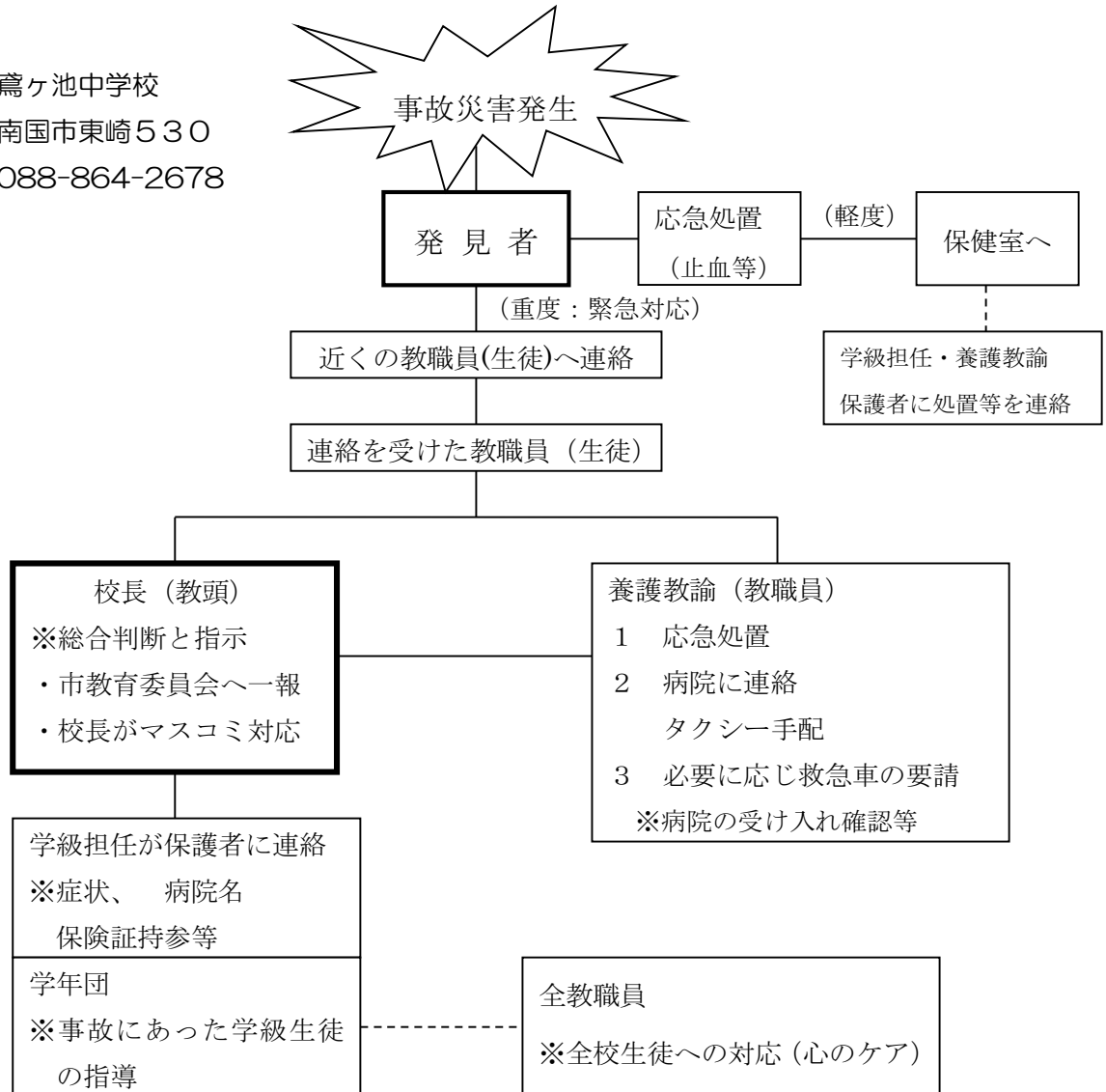
＝ 危機管理の五原則 ＝

「最悪」を思って、「慎重」かつ「素早く」

「誠意」をもって、「組織」で対応

事故災害発生時の対応マニュアル

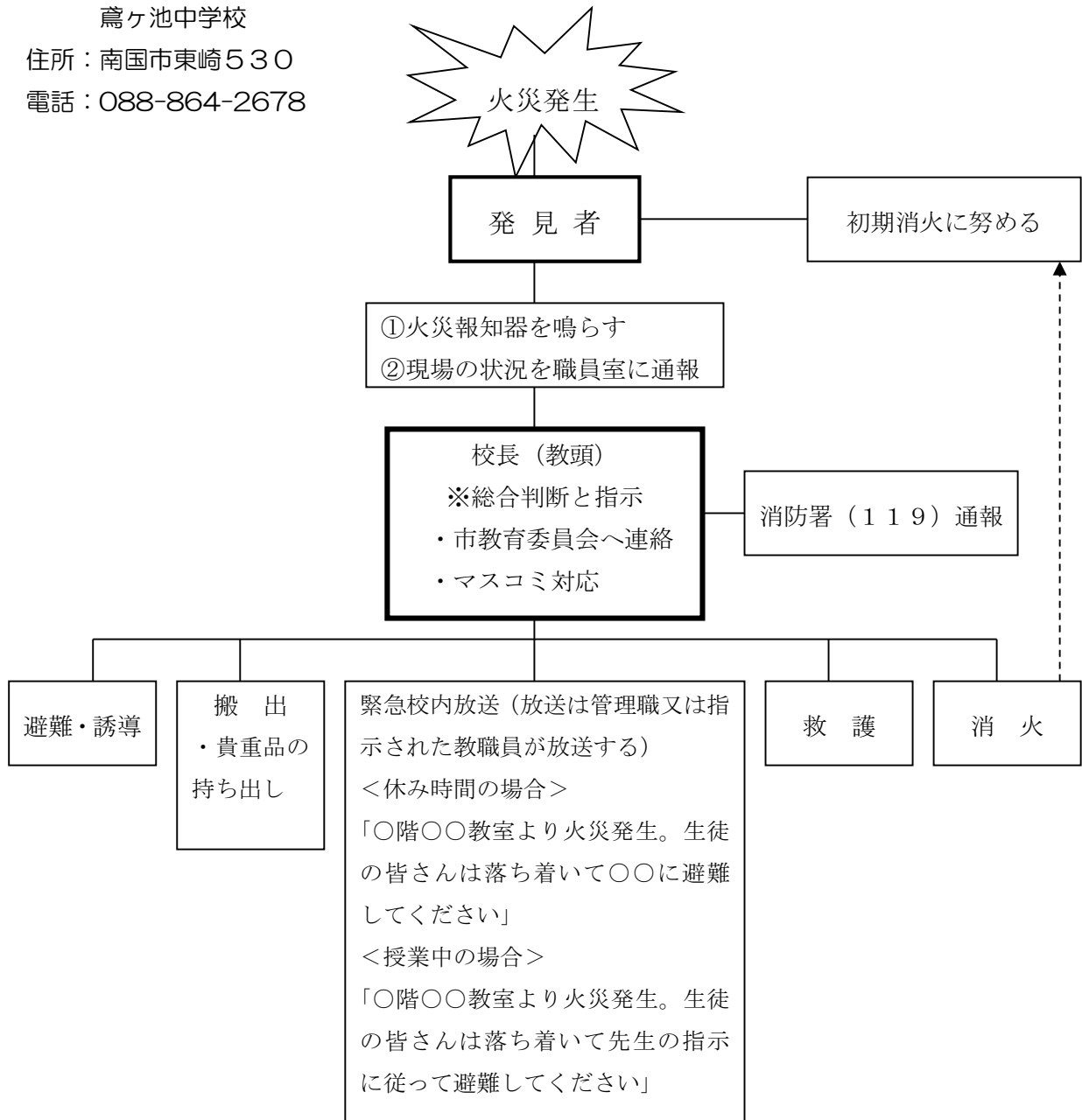
鳶ヶ池中学校
住所：南国市東崎530
電話：088-864-2678



- 1 発見者は、事故（けが）の症状が軽ければ、保健室に運ぶ。重症と思われるときには、近くの教職員又は生徒に職員室の教職員・養護教諭への連絡を依頼する。
- 2 養護教諭は、直ちに応急処置を行い、マイライフ（環境調査書）からかかりつけの病院を調べ、電話で受け入れの確認をする。学級担任は、家庭へ症状と行き先の病院名と保険証持参のことを伝え、病院につれていってもらふ。連絡が取れないときは、原則タクシー（タクシー券利用）で移送する。
- 3 養護教諭又は学級担任がタクシーで病院へ移送する場合は、マイライフ（環境調査書）を持参する。治療が長引くときは、途中学校へ連絡する。
- 4 養護教諭不在のときは、管理職、学級担任、他の教職員が対応する。
- 5 緊急の場合は、救急車を要請する。養護教諭又は事故の状況を把握している教員が同乗する。
※校長（不在の場合は教頭）は、同乗するか、又は即病院に出向く。
- 6 校長は事故報告書を作成し、教育委員会へ提出する。
- 7 新聞社等、マスコミへの対応は校長が行う。（窓口の一本化）
※ 必ず、分刻みの時間の確認と記録（現場写真を撮影等）を残しておくこと。

火災発生時の対応マニュアル

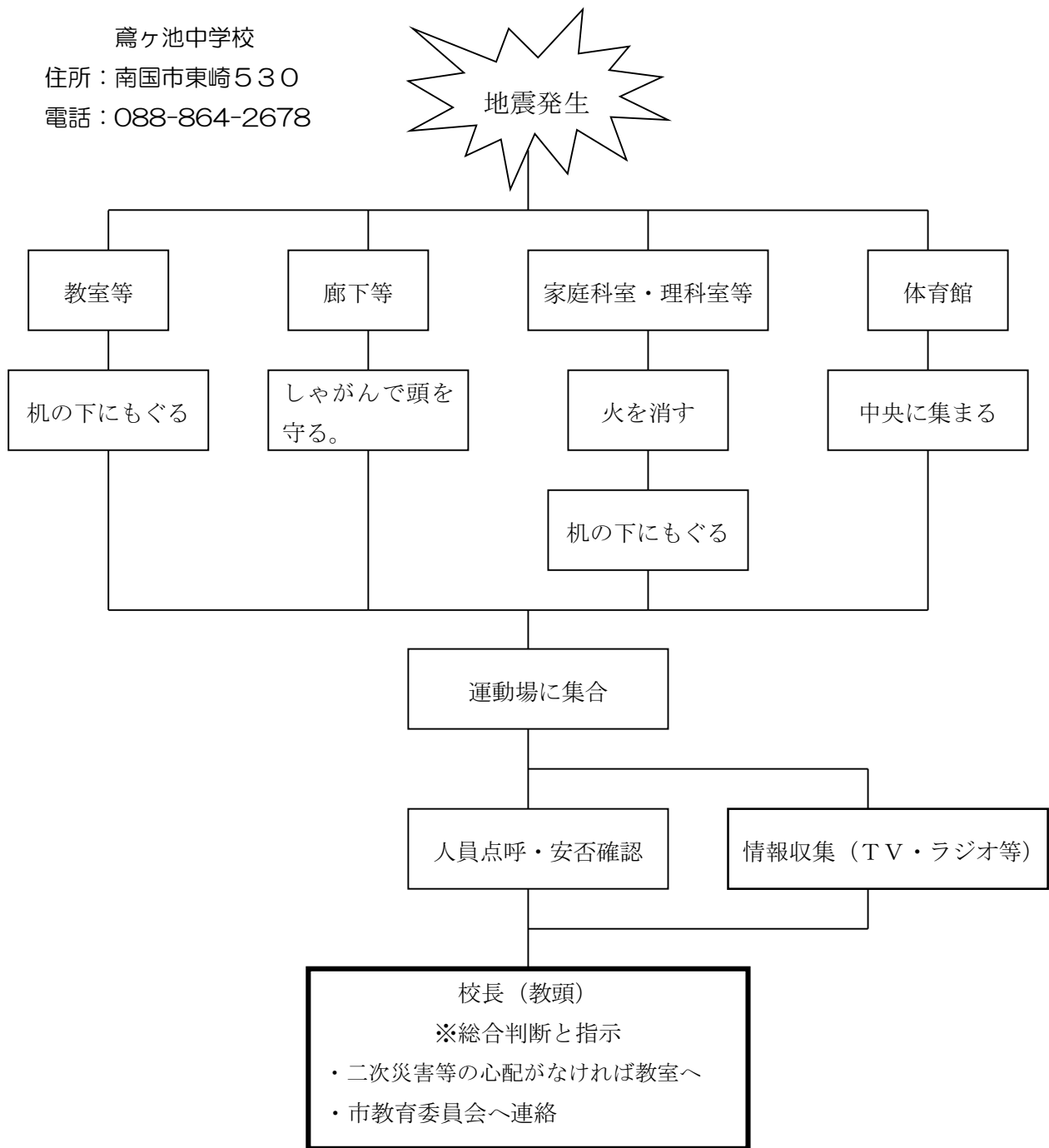
鳶ヶ池中学校
住所：南国市東崎530
電話：088-864-2678



- 1 生徒の生命の安全を最優先に考える。
- 2 火災発生場所を正確に把握・報告する。避難経路は、火災発生場所より遠いところを考える。
- 3 第1避難場所は、運動場とする。

地震発生時の対応マニュアル

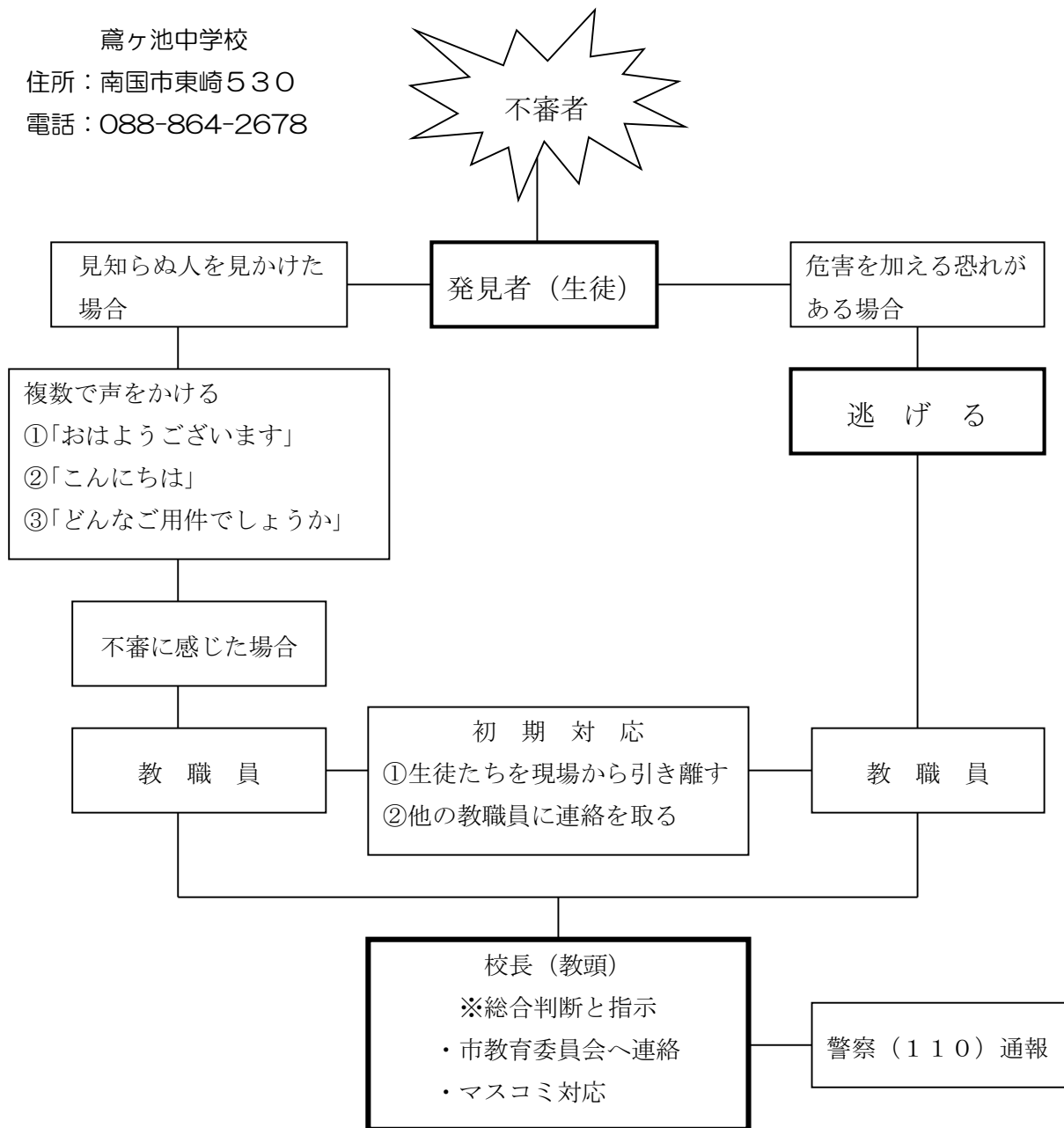
鳶ヶ池中学校
住所：南国市東崎530
電話：088-864-2678



- 1 生徒の生命の安全を最優先に考える。
- 2 火災発生を防ぐ努力をする。
- 3 避難後、津波発生の情報があった場合は、校舎の破損状況等を確認し北舎3階に避難する。
 - ・1年：音楽室
 - ・2年：生物室
 - ・3年：理科室

不審者侵入時の対応マニュアルⅠ

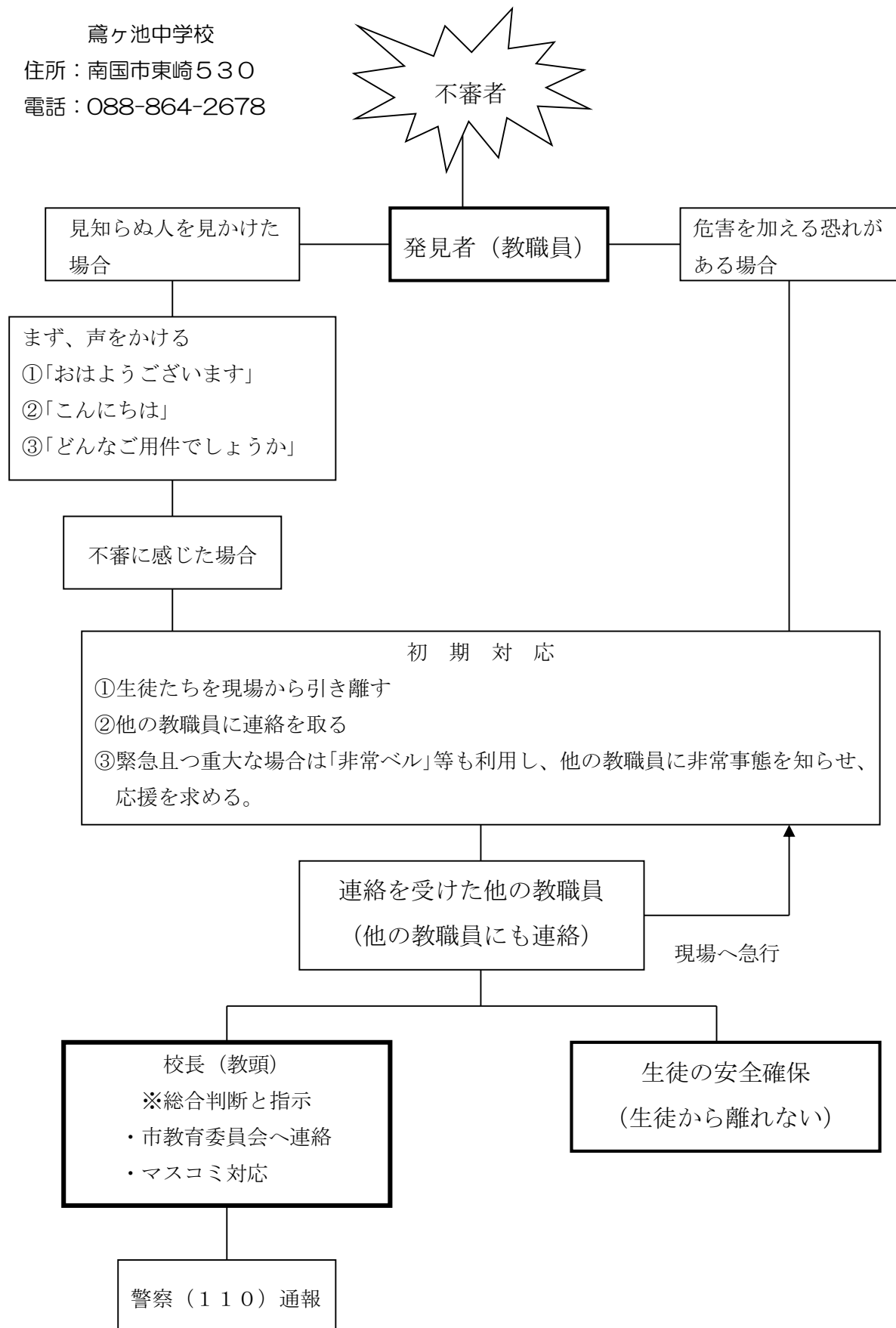
鳶ヶ池中学校
住所：南国市東崎530
電話：088-864-2678



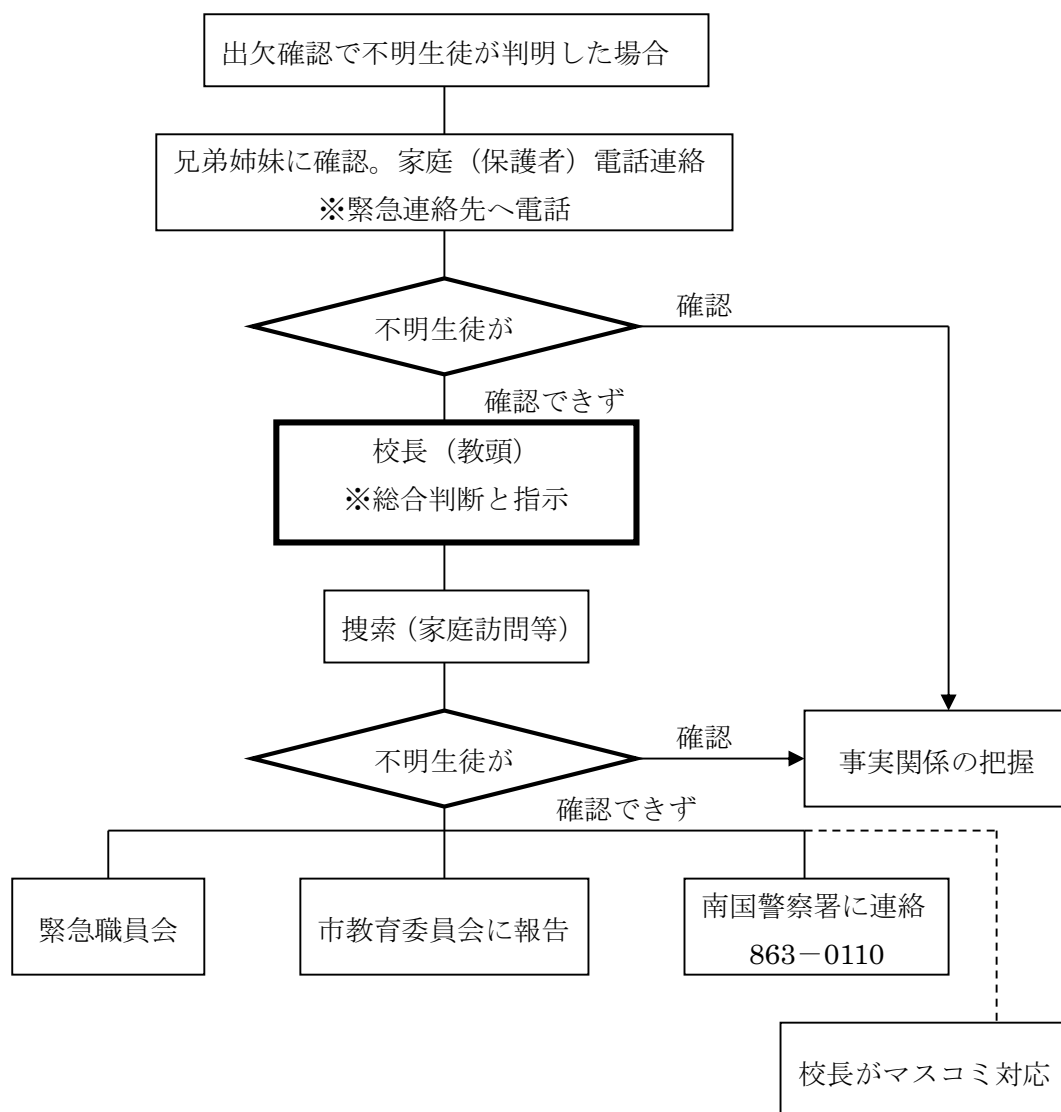
- 1 生徒たちだけの時間（空間）をつくらない。
- 2 生徒を現場（危険な場所）から逃がすことを最優先する。
- 3 危害を加える恐れのある人物に立ち向かわない指導をする。
- 4 緊急参集時の合い言葉「」
 - ①生徒が直接管理下（授業中や部活動等）の場合、教員は生徒から離れない。
 - ②生徒が間接的な管理下（始業前や休み時間、放課後）の場合、学級担任は教室等へ
 - ③他の教職員は職員室へ参集し、指示（情報等）を伝達する。

不審者侵入時の対応マニュアルⅡ

鳶ヶ池中学校
住所：南国市東崎530
電話：088-864-2678

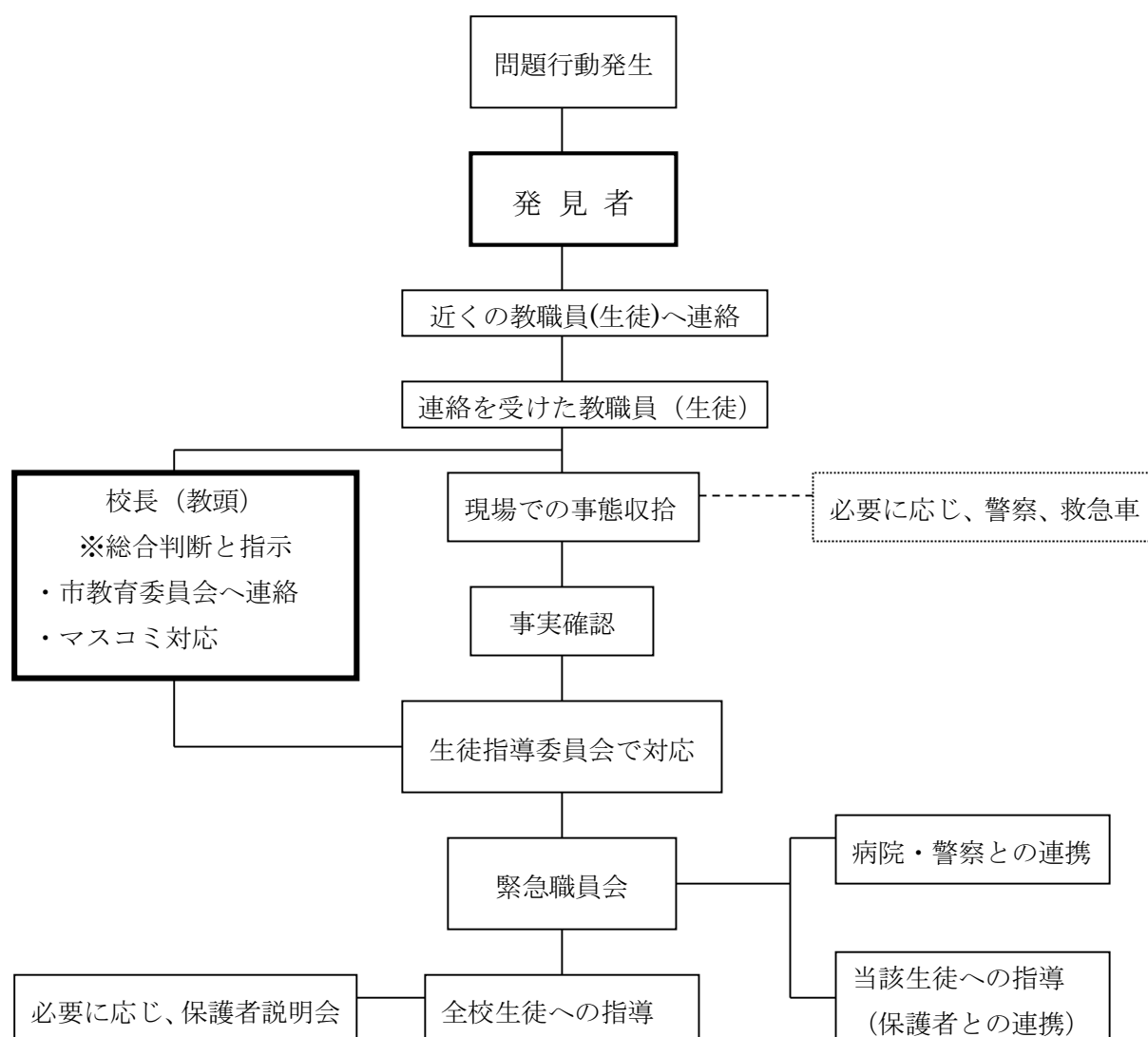


欠席届等の連絡がない（不明生徒）時の対応マニュアル



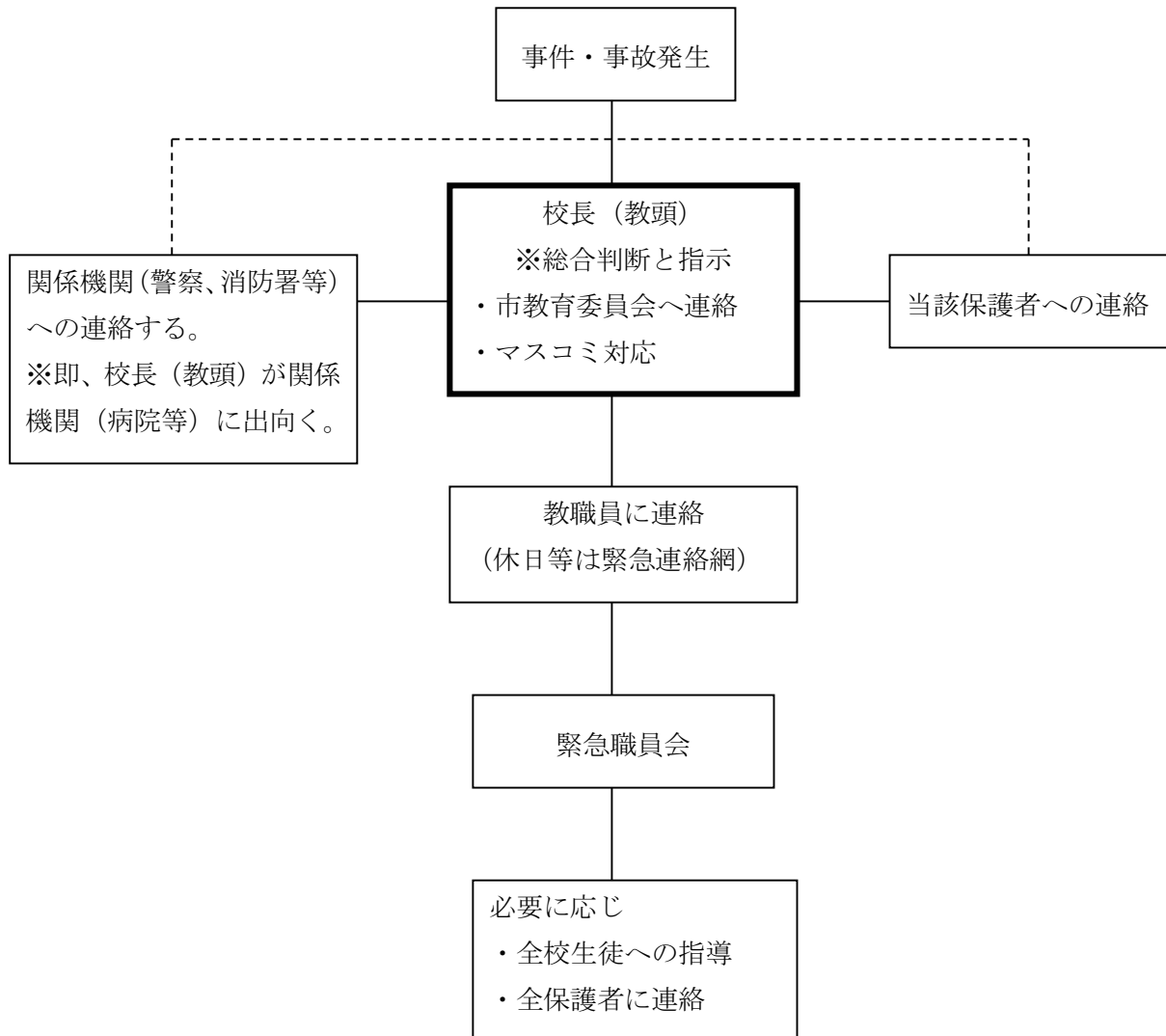
- 1 朝の会で出欠確認をし、不明生徒がいた時には速やかに兄弟姉妹に尋ね確認する。確認がとれない時には、保護者に電話で確認する。
- 2 保護者に連絡し確認が取れた時には、欠席届の連絡のお願いをする。その後、校長（教頭）に生徒の連絡がとれたことを報告する。
- 3 保護者との連絡がとれても生徒が不明のままの時には、校長（教頭）に報告し、複数の教職員が搜索に出かける。当該教職員は、搜索の状況を時々学校に連絡し、校長（教頭）の指示を受ける。発見できた時は、直ちに報告する。
- 4 生徒を発見できない時には、緊急職員会議を開き、対応策を協議する。校長が教育委員会・警察に連絡し搜索の協力を求めるとともに、全教職員で搜索を続ける。
- 5 生徒を発見できた時には保護し、直ちに学校に連れてくるとともに保護者に第一報を入れる。担任は、生徒から経過（家を出てからの状況、理由等）を確認する。その結果を校長（教頭）に報告する。
- 6 今後の対応策を協議するとともに、必要に応じて全校生徒に説明する。

問題行動・いじめ発生時の対応マニュアル

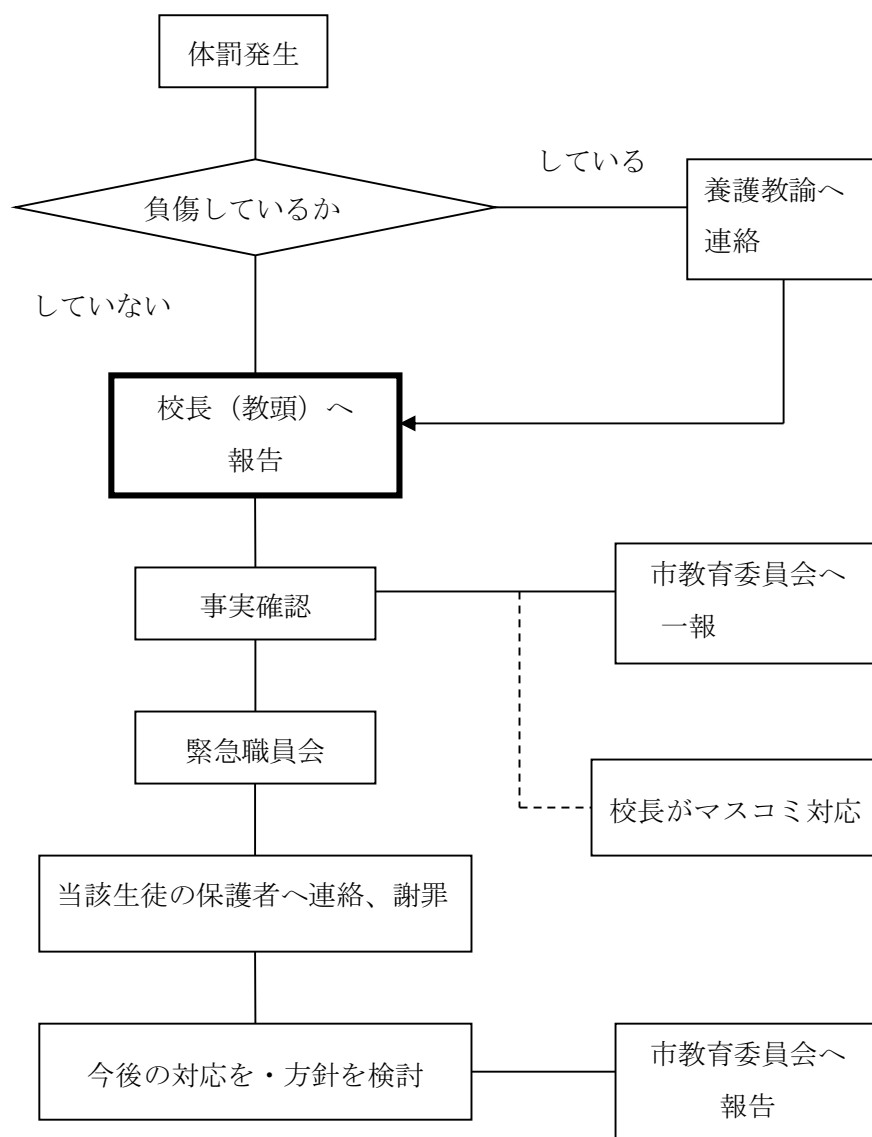


- 1 複数の教職員で現場に急行し、事態を収拾するとともに、校長（教頭）に報告する。
- 2 当該生徒から迅速に事情を聴き、事実関係を正確に把握する。（当該生徒が複数の場合は別々に事情を聴く）
- 3 重大な事件・事故は、速やかに警察等に連絡する。救急措置が必要な場合は、救急車を呼ぶ。
- 4 重大な問題行動に対しては、生徒指導委員会で生徒指導主事が中心となり組織的に対応する。
- 5 職員会議において、校長が事件の状況を説明し、対応方針、教職員の役割分担、今後の日程等について指示する。
- 6 全校生徒への指導においては、混乱を起こさないこと、プライバシーを守ることを基本に行う。被害生徒及び保護者の了解を取っておくことが必要である。
- 7 二度と事件・事故を起こさないための未然防止の在り方について、検討する。

校外（登下校時）での事件・事故発生時の対応マニュアル
(交通事故・行方不明・死亡・不審者発見等)



教師の体罰発生時の対応マニュアル

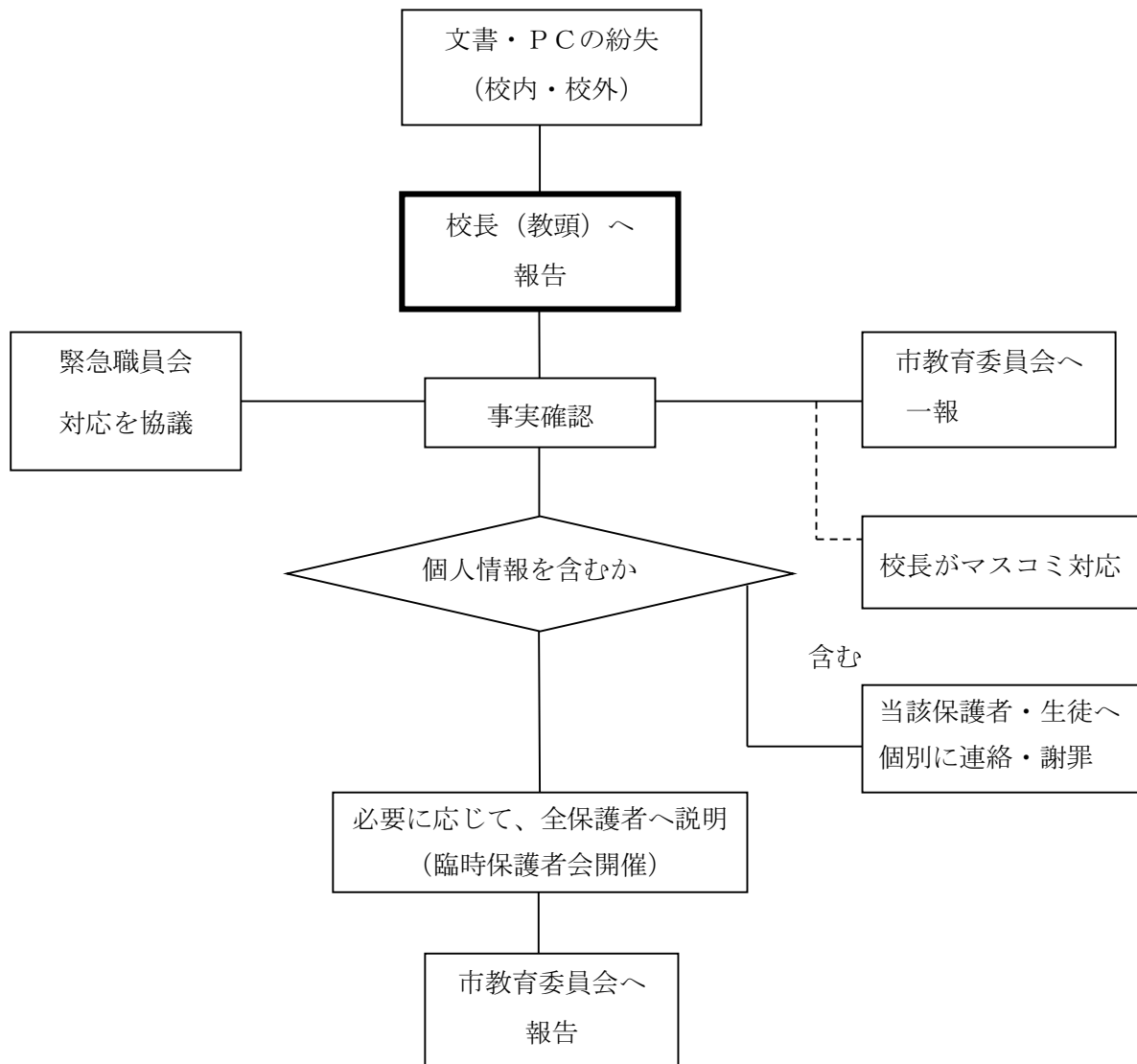


- 1 一人で解決しようと思わず、マニュアルにそった敏速な対応が必要である。
- 2 生徒が負傷したときは、すぐに養護教諭に連絡し、応急手当をする。
- 3 学級担任及び当該教員は、当該生徒の保護者に会い、信頼回復の努力を行う。校長・教頭は必要に応じて家庭に出向き謝罪する。

文書・P C（個人情報）紛失時の対応マニュアル

文書・P Cは、校外に持ち出しをしてはならない。ただし、校長の許可を得たときは、この限りでない。

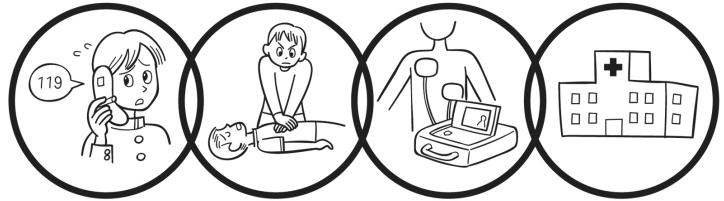
※文書とは、学校の職員が職務上作成し、または取得した文書、図面、写真及び電磁的記録（CD、USB 等に記録したもの）をいう。



応急手当の意義と救命の連鎖

適切な応急手当によって、救命やけがの悪化防止、苦痛の軽減ができます。けが人や急病人が発生したときに重要なのは、その場に居合わせた人（バイスタンダー）による応急手当や119番通報から、救急隊への引き継ぎ、医療機関での治療へとすみやかにつなぐ救命の連鎖

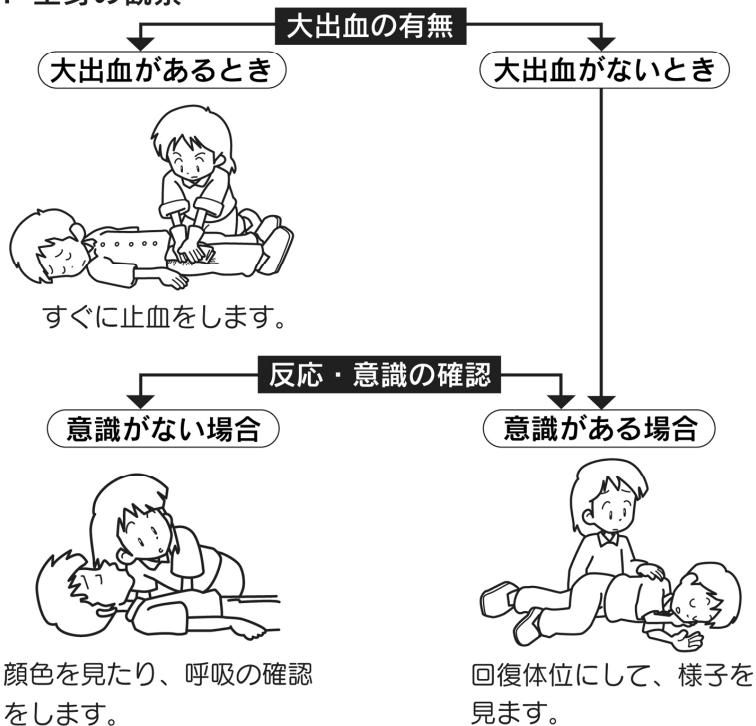
鷺ヶ池中学校
住所：南国市東崎530
電話：088-864-2678



救急医療情報センター（24時間365日対応） ☎088-825-1299

応急手当の流れ

1. 発見・周囲の安全を確認（安全でなければ、安全な場所に移動する→二次災害の防止）
2. 全身の観察



- ↓ **呼吸をしていない場合**
3. 協力者を求める
119番通報、AEDの依頼
 4. 応急手当を行う
気道の確保、心肺蘇生法、AEDの使用
 5. 救急車で搬送
応急手当の状況を救急隊に伝える

救急車の呼び方



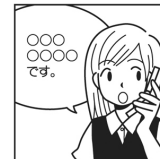
落ち着いて119番にかけ、「救急です」と言います。



救急車に来てほしい場所を落ち着いて伝えます。



分かる範囲でいつ・誰が・どのようなようになったかを伝えます。



必要な手当を聞き、通報者の氏名と電話番号を伝えます。



救急車が近づいたら、目立つように合図をして誘導します。

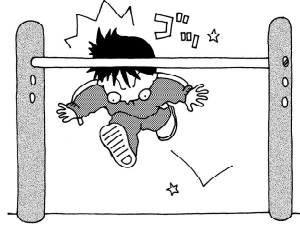


救急隊到着後に傷病者の容態、手当の内容を伝えます。

学校で起こりやすい事故の外科的救急処置のポイント

打撲

●頭部の場合 … 予想される類似事例 ⇒



- ・ 鋼鉄棒や高い所から転落し頭蓋内出血
- ・ 滑って転倒して、壁や床に強打し頭部を損傷
- ・ 宙返り、蹴り上げなどで失敗して強打し頭蓋内出血
- ・ 振ったバット、投げた砲丸やボールがあたり脳挫傷
- ・ 机やいすから転倒し頭皮を損傷

- ① 声をかける。
- ② 気道を確保する。
- ③ 意識障害がない場合は、頭をやや高くして静かに寝かせる。

留意点

- ・ 受傷時意識がはっきりしていても、時間の経過と共に意識障害がでることもある。
- ・ 意識障害がなくても、最低1 時間くらいは保健室で安静に休ませ経過をみる。

●胸部・腹部の場合 … 予想される類似事例 ⇒

- ① 衣服をゆるめ静かに寝かせる。
- ② 激しい痛み、腹部の腫れ、頻脈、呼吸が浅い場合は内臓破裂を疑い、救急車を依頼する。

- ・ 横腹を回し蹴りされて腎臓破裂
- ・ 平均台から落下し肝臓破裂
- ・ 素振りのバットが腹部にあたり外傷性すい炎
- ・ 騎馬戦で倒れて、体の上にのられて肋骨骨折
- ・ 防火扉に挟まれて内臓破裂
- ・ 高い所から落下し脾臓破裂

留意点

- ・ 外見上かるくみえても呼吸や脈の状態に注意する。呼吸困難や出血性ショックを起こすこともあるので経過観察をする。

ガラスで深く切傷

予想される類似事例 ⇒

- ・ 走っていて頭からガラス戸に突っ込み頭部切傷
- ・ 押されて体を支えようとし、窓ガラスに手をつきガラスが割れ手首の動脈裂傷
- ・ プロレスごっこをしていてガラス戸に足があたり太ももの血管を断裂

- ① 傷口を圧迫止血する。
- ② 傷口を心臓より高い位置にする。

留意点

- ・ 止血帯を巻いた時刻を記録しておくこと。
- ・ ガラスが深く刺さった場合は、血管や神経を傷つける心配があるので、抜かずに周囲を固定し受診する。

火傷・熱傷

予想される類似事例 ⇒



- ・調理実習でエプロンに火が引火し火傷
- ・理科の実験中、アルコールランプが引火し火傷
- ・理科の実験で試験管が破裂し薬品で火傷
- ・技術、家庭科でハンダコテに直接手を触れて火傷
- ・お茶の準備中、やかんをひっくり返し、お湯が足にかかって熱傷

① 早く水で冷やす。

留意点

- ・水ぶくれは破らない。(破ると感染をおこしやすくなる)
- ・衣服を着ているときは、着せたまま水をかけ、無理に服を脱がさない。
- ・薬品による火傷は、流水でよく流す。
- ・消石灰、マグネシウムは、水で洗うと熱を発するので粉末を落としてから受診する。

手足の指の切断

予想される類似事例 ⇒

- ・技術科の授業中に電動のこぎりで指を切断
- ・裁断機で指を切断
- ・非常用のドアで指を挟み切断

① 傷口を圧迫止血し受診する。

② 切断された指は湿ったガーゼでくるみビニール袋に入れ、更に氷を入れたビニール袋に入れ受診する。

留意点

- ・切断された指は水で洗わない。
- ・指を入れたビニール袋の中に水が入らないように注意する。

歯の脱臼・破損

予想される類似事例 ⇒

- ・廊下を走っていて転倒して、歯を強打し脱臼
- ・野球のノックのボールで強打し歯冠部破損
- ・けんかして殴られ、歯が折れる
- ・体育の準備運動中、前の子の肘があたって脱臼

① 出血がある場合は、圧迫止血する。

② 腫れている場合は、患部を冷やす。

③ 脱落した歯は、生理食塩水か牛乳を入れた容器に入れ受診する。(市販の歯の保存液がある)

留意点

- ・脱落した歯は水で洗わない。
- ・できるだけ早く受診する。

目に物があたった

予想される類似事例 ⇒



- ・教室で、飛んできた帽子のつばが目にあたって角膜を損傷
- ・窓ガラスにぶつかり、割れたガラスが目刺さってまぶたを裂傷
- ・掃除中、振り回していたほうきの柄があたって瞼皮下出血
- ・けんかをして顔面を殴られ、眼窩底を骨折
- ・階段を駆け上がったところで、反対からきた子と出会い頭にぶつかり打撲
- ・マット上で空中回転をした時、着地の際、自分の膝で強打し眼窩底を骨折

① 傷や眼球の状態を調べる。

留意点

- ・異物が刺さっている場合は、そのまま受診する。
- ・眼を圧迫しない。
- ・片目のけがでも両目を覆う。
- ・コンタクトレンズをしている場合は、無理に外さないでそのまま受診する。

目に石灰・薬品が入る

予想される類似事例 ⇒



- ・ライン引きの最中に風が吹き、石灰が目に入り結膜の炎症
- ・サッカーの試合中、ボールをヘディングした際に、ボールについていた石灰が目に入って角膜を損傷
- ・プール底に落ちていた消毒剤を投げられ、目にあたり結膜を損傷
- ・理科の実験中、薬品が目に入って視力障害
- ・砂遊び中に砂を投げられ、目に入って角膜を損傷

① 充分すぎるほどの水でよく洗い流す。

② 洗浄のあと眼科医に受診する。

留意点

- ・目をこすらない。
- ・洗った水が、石灰や薬品が入っていないほうの目に触れないように注意する。
- ・水圧に注意する。
- ・目薬など点眼しないで受診する。

ショックを起こしたとき

(顔面蒼白、呼吸が浅く速い、手足の冷感、意識障害)

予想される類似事例 ⇒



- ・ 昼休みにグラウンドで遊んでいるとき、食物アレルギーによる呼吸困難
- ・ 弁当のえびを食べたあと、口、喉の周りのかゆみと呼吸困難を併発
- ・ 下校中、交通事故を起こし内臓破裂による大出血
- ・ 部活動中、素振りのバットを胸部に強打
- ・ 予防接種後、激しい嘔吐を繰り返した

- ① 意識の状態をみる。
- ② ショック体位をとり保温する。

留意点 ・ 食物依存性運動誘発アナフィラキシーショックの症状には、個人差があるので、注意する。

呼吸困難や顔のむくみ、喘息発作を起こすことがある。

・ ショック症状がある場合には、20分以内に処置が必要となるので、速やかに受診する。

性器のけが

予想される類似事例 ⇒

- ・ 一輪車等で転倒し強打
- ・ 鉄棒、平均台から落下し強打
- ・ 側溝に落ちた際、コンクリートで強打
- ・ 蹴られて強打

- ① 患部を冷やし安静にする。

留意点 ・ 内出血があるかどうかを確認する。



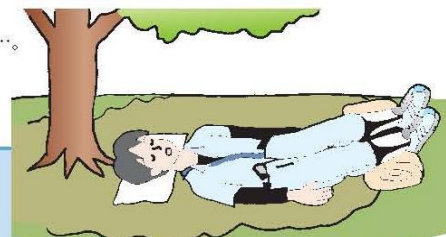
こんなときは迷わず病院へ

●熱中症の応急措置

異状の発生!!

—あわてるな！されど急ごう応急措置—

熱中症は予防が大切です。
しかし、もし熱中症になってしまったら…。
万一の場合に備えて、応急手当や必要な
措置などを理解しておくことは大変重要
です！



涼しい場所に運び、衣服を緩めて寝かせる。

次のような症状がみられる場合は、速やかに必要な手当や措置をとる。

熱けいれん

大量の発汗があり、水の
みを補給した場合に血液
の塩分濃度が低下して起
こるもので、筋の興奮性
が亢進して、四肢や腹筋
のけいれんと筋肉痛が起
こる。

熱疲労

脱水によるもので、全身
倦怠感、脱力感、めまい、
吐き気、嘔吐、頭痛など
が起こる。頻脈、顔面蒼
白となる。体温の上昇は
顕著ではない。

熱射病（重症）

体温調節が破綻して起こり、
高体温で種々の程度の意識障
害が起こる。足がもつれる・
ふらつく・転倒する、突然座
り込む・立ち上がれない、応
答が鈍い、意識がもうろうと
している、言動が不自然など
少しでも意識障害がある場合
には、熱射病を疑う。

生理食塩水を補給する。
(0.9%食塩水
= 1ℓの水に9gの
食塩水)



水分を補給する。
(0.2%食塩水ある
いはスポーツ
ドリンク等)



回復しないときは
救急車を要請!!



回復!!

足を高くして寝かせ、
手足を末梢から中心部
に向けてマッサージす
るのも効果的

回復しないときは
救急車を要請!!



※ 回復した場合も、容態が急変
することがあるので、運動は中
止し、保護者に経過を説明して、
できるだけ病院等に受診させる
ようにしましょう。

病院へ!!

吐き気や嘔吐などで水分補給ができな
い場合は、病院へ運び点滴を受ける必
要があります。



すぐに救急車を要請し、
同時に応急手当を行う。

救急車到着までの間、積極的に体
を冷やす。

☆ 水をかけたり、
濡れタオルを
当てて扇ぐ。



One Point!!

上記に加えて、氷やアイスパックがあれば、
頸部、脇の下、
足の付け根などの
大きい血管を冷や
すのも効果的!



※ できるだけ迅速に体温を下げ
ることができれば、救命率が上
がります!!

病院へ!!

体を冷やししながら、設備や
治療スタッフが整った集中
治療のできる病院へ一刻も
早く搬送しましょう!!



「感染症」集団発生時の対応

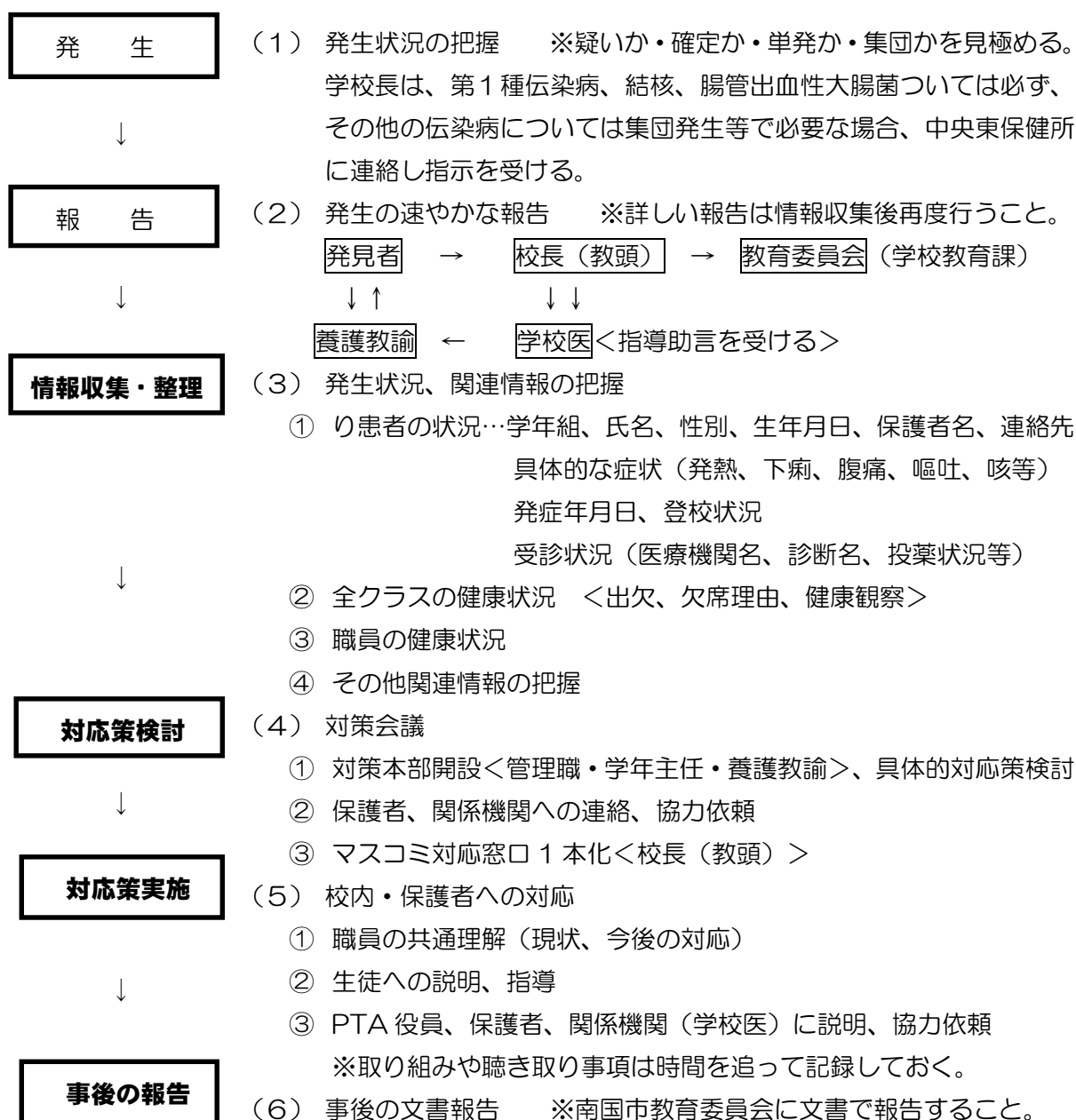
…健康観察によって感染症（伝染病）の集団発生が予測される時は、速やかに次の対応、措置をとる…

1. 基本的留意事項

- (1) 健康観察…感染症り患（疑い）者の早期発見に努める。欠席者については、保護者より欠席理由をできるだけ正確に把握する。
- (2) 情報把握…学校医や関係機関と連絡を取り、地域の発生状況を把握する。
- (3) 保健管理…り患者の早期の安静を促し症状の重症化を防ぐ、また、集団感染を防止するために必要な措置をとる。
- (4) 保健指導…感染症の予防・対策に関する知識を習得させ、適切な生活行動を促す。また、保護者への報告と啓発を行い、協力を得る。
- (5) 情報管理…プライバシーの保護に配慮する。

2. 学校において予防すべき感染症の種類と出席停止の基準の確認（別紙参照）

3. 感染症集団発生の場合の対応の流れ



北朝鮮によるミサイル発射時の避難行動マニュアル

1 趣旨

有事の際に敏速な避難行動を規定し、それを基準にして、着弾地点・時刻などの情報に対して、臨機応変な対応に資する。

2 ベースとなる避難行動

(1) Jアラートによるミサイル発射速報

① 校長室にいる職員は、ただちにテレビをつける。

② 校内放送または肉声にて全校生徒に指示

「緊急避難命令 生徒・教職員は、ヘルメットを着用して、「緑の広場」に速やかに集合。……
(くりかえし)……………」

③ 運動場や体育館で活動している生徒も、ただちに教室にもどり、ヘルメットを着用して、「緑の広場」に集合する。

緑の広場は、緊急避難命令発令後3分以内で完了させる。

(2) 避難してきた生徒・教職員にミサイル発射に対する対応であることを告げる。

緊急避難命令発令から4分以内で完了させる。

(3) 生徒に低い姿勢をとらせる。教職員はそのまわりを囲むように、机などの盾となるものをガラス窓側に設置する。

(4) 着弾がなく、上空を通過した場合

報道や行政による安全確認ができ次第緊急避難命令を解除する。

(5) 着弾があった場合

A 遠方への着弾

① ミサイルの種類に関する情報（規模や有毒ガスなど）を収集する。

② テレビ等の安全確保に関する方法を収集し、鳶ヶ池中への被害が及びそうな場合は、可能な限り遠方への避難行動を実行する。

B 近隣への着弾

① 着弾の衝撃による負傷者の確認。

→負傷者のいる場合は、養護教諭を中心に地震対策の救護班による救急活動を開始する。
また、同時に救急車の手配を行う。

② ミサイルの種類に関する情報（規模や有毒ガスなど）を収集する。

③ 火災などの情報にも注意する。火災による危険が迫る場合は、できるだけ着弾地点から離れる行動をとる。